

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501803		
法人名	三井ヘルスサービス株式会社		
事業所名	グループホームあかり		
所在地	札幌市白石区栄通16丁目6-16		
自己評価作成日	平成22年10月27日	評価結果市町村受理日	平成23年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・利用者にとって、いごちの良い生活をして頂くために、家庭的な雰囲気を保ち常に相手を敬う気持ちを持って接するようにしている。
- ・家族の方が来所された際は、かならず日常生活の様子をお話している。
- ・地域の方とも仲良くさせて頂き、会長さん等は朝早く畑に苗を植えて下さっていることもある。
- ・近所の方はお花や野菜などを届けて下さる。
- ・あかり祭りを年1回開催しているが、近所の方々も多数参加して下さっている。
- ・職員の資格取得や研修参加を積極的に呼びかけており、実際資格取得や研修参加を行なっている。又、研修費用の全額、資格取得費用の貸付制度などを会社が行なっている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170501803&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成22年12月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄駅近くの住宅地にある1ユニットのグループホームです。建物は2階建てで、1階がデイサービス、2階がグループホームになっています。周辺には大きな公園や遊歩道、スーパーなどがあり、散歩や買い物に便利です。建物内はバリアフリーが行き届き、エレベーターや手すり、使いやすいトイレや風呂などが整備されています。屋台のように見えるキッチンカウンターや活動意欲を高める遊び道具などもあり、居心地の良い雰囲気となっています。利用者の介護サービスの面では、アセスメントシートや介護計画をきめ細かく、短い期間で見直し作成しており、家族と情報の共有も図っています。利用者の人格を尊重した介護を心がけ、利用者も職員に穏やかにやさしく接しています。ホーム長が看護師の資格を持ち、提携医療機関の支援も整い安心できます。職員同士の人間関係も良好で、外部研修の参加機会も多く、サービス向上に向けて積極的に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝のミーティングの際に、出勤しているスタッフ全員で理念を唱えており、共有意識、理念の意識を確認し、実践に生かしている。社内の新人研修も行なっている。	理念の中に「地域に密着した生活環境を創る」という文言を掲げ、地域密着型としての理念を確立しています。他に「ケア理念」も作り職員全員で共有しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方と交流が持てる様行事などに参加し、地域と一体となってサービスに取り組んでいる。また、参加することで地域の方に認知症の方の生活等を理解していただいている。	町内会の祭りに参加したり、運動会を見学に行っています。ホームの祭りに地域の方々が参加しています。小学生の介護学習の受入れも行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に、認知症を理解していただけるよう努めている。今年度は、地域の方々を集めての講演等を行なう予定であるが、まだ行なえていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議において、取り組んできたサービス、現状等を報告し、その中で出た意見をその後のサービス向上に繋ぎ込んでいる。又、町内行事にもかならず参加させて頂いている。	会議は2ヵ月毎に開催され、包括支援センター、協力医院、町内会長、民生委員、家族などの参加を得ていますが、家族の参加者は多くはありません。	家族の方々のより多くの参加が課題ですが、参加できない家族に議事録を送り、来訪時に意見を頂くなど、補完的な取り組みを期待します。また、出席者に事前にテーマを知らせるなどして、会議の活発化を図られるよう期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との行き来は現在ないが、ホーム長が認知症コールセンターの相談員を行なっている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加し、情報を得ています。市から認知症コールセンターの相談員を依頼され、ホーム長が行っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などにおいて理解はしているが実際にホーム内において危険行為のある方が2名おり、家族の同意を得て夜間のみベッド柵を使用し、事故防止を行なっている。	身体拘束防止に関するマニュアルを用意し、勉強会も開いています。居間から階段への戸及び玄関は、夜間のみ施錠しています。玄関にセンサーをつけて外出がわかるようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	社内外の研修、勉強会を通し、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修、勉強会等により、徐々に理解は深めてきているが、現在該当する入居者がいらっしゃらず、取り組む機会がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約等の説明を丁寧に行い、理解を得られている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム連絡先、外部関係機関への連絡先をホーム内に掲示し、連絡しやすい環境作りをしている。又、日々のケアの中でも意見に耳を傾ける様努めている。	年2回の家族会の際に家族の意見を頂いたり、来訪時にも意見を聞いています。家族が、職員に意見を言いやすい関係作りに努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	数回行なわれる勉強会やミーティング、毎日のカンファレンスの中で職員の意見や提案を管理者は聞き入れ、その都度話し合いを設け、より良い職場環境作りに反映している	月1度のミーティングや勉強会で、職員が気づいたことを発言する場面を作っています。職員それぞれが目標を設定し、管理者等と定期的に個別面談を行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に何度かホームに来所され、職員に対しての困っていることや質問などに耳を傾け、常に状況を把握されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加を促しており、実際に多数が参加している。又、介護福祉士やケアマネージャー等の資格試験の受験も積極的に促している。研修で得た知識、技術を現場で実践出来る様働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームとの連絡網を作成し意見交換や相互訪問等を行い、互いの取り組みを比較し、改善点等があればケアに取り入れる様努め、互いにサービス向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前調査で、利用者の生活歴や趣味、願い等をあらかじめ理解しておくように努めている。本人の気持ちに共感し、不安な事に対するの対応を伝え、安心、信頼を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に家族とは連絡を行い、困っている事や要望に対してはその都度対応し、解決できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療機関との連携も含め、対応に努めている。近隣の病院と連携し、24時間対応してもらえるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や畑仕事、日曜大工等、ご本人の得意な事を通じて、喜怒哀楽を共有している。利用者の得意な事を通じ、学んだり、支えあう関係を築いていく。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月新聞を作成し、行事や日常生活の報告をしている。家族交流会等を通じて情報交換し、一緒にご本人を支えていく関係が築けている。外出行事にもご家族様に参加頂ける様声掛けをし、実際参加して頂いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの物を使用して頂く様に努めている。又、家族との連携を図り、馴染みの人や場所との関係が途切れないように一時帰宅をしたり親戚友人に会う機会を提供している	知人との関係が途切れないよう来訪を歓迎し、手紙が来たら一緒に返事を書くなどの支援をしています。家族の協力のもと、昔馴染みの場所に行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係の把握に努めており、職員も一緒に関わりながら楽しめる関係作りに努めている。本人や家族からの情報収集、又、職員が感じた事を記録に取り、職員間で情報の共有を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時にいつでも相談に応じることや遊びに来て下さいとお話ししている。実際に収穫された野菜などを持って来て下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いに沿った暮らしができるように情報収集に努め、困難な場合も含め、本人の気持ちを汲み取り、近づける様取り組んでいる。	表情や仕草から意向を把握し、笑顔が見られる対応をしています。センター方式のアセスメントシートを年2回見直しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報収集し、生活の場からその人の特徴を見極めた上で、その人にあった生活環境が保てるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録を取りながら利用者一人のひとりの生活リズムや声に耳を傾け、その行動を把握した上でその人にあった対応を行なっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見や家族情報等によりどのようなケアが良いのか課題を検討し、状況に変化があった場合は、必ずアセスメントを行い、カンファレンス開き解決に努めている。	介護計画は、項目毎に必要な性を判断して毎月見直し、きめ細かく作成されています。日々の記録は、介護計画を十分に意識した記録方法とはなっていません。	日々の介護記録について、より利用者一人ひとりの介護計画の項目を意識して、記録ができるよう、書式や記入方法の検討を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送り等により情報を共有し、月に1度カンファレンスを行い実践や計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のDsと協力しあい一緒に行事(あかり祭り)などを行なって利用者、家族の方にも楽しんで頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回の消防訓練の際、町内会の方々も参加して下さっている。また、年1回地域の小学校PTAの方々より、タオルの贈呈がある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム内の看護職員と連携しながら健康管理を行い、医療的立場から指導して頂き、互いの情報の交換も密に行なっている。	協力医療機関に月1回程度、利用者が通院しており、必要に応じて往診も受けられます。受診内容は「診療記録」に適切に記録しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内の看護職員と職員が協働し健康管理や医療活用の支援を行なっている。また、Ds併設にて、日中医療的な問題があった際は即座に相談することがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や入退院後の相談に努め連携もとれている。また、ADL低下防止の為、できるだけ離床を心がけ医師指示の下、病状に合わせて訪問リハビリも行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で話し合いを設け、医師と家族の方及びホーム側との連携を密に行なっている。	重度化した場合もできる限り対応する方針とし、看取りも経験しています。「重度化した場合の対応指針」を家族と取り交わしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内において、事故発生時の訓練や急変時の対応などにおいては、勉強会や訓練等を行い、マニュアルなども作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との連携を行っており、年2回の訓練を全職員及び地域の方々にも参加して頂き行っている。 今年度は2回夜間想定し行なった。	年2回、昼夜を想定して避難訓練を実施しており、消防署や地域の方々の協力も得ています。救急救命訓練も職員全員が受講しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシー保護に努めている。また、個人情報管理の徹底を行なっている。	利用者の人格を尊重した声かけや対応に気を配っています。個人記録等は適切に保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの個性を理解し、なるべく希望や自己決定を表し易い環境作りに努め、自己解決を促している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々生活する中で利用者本意に事を運び、利用者一人ひとりの希望やペースに合わせた支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者とは相談し、希望に沿った衣類選びをしている。理容師によりヘアカットや毛染め等も行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その人に合わせた食事・調理・片付けをスタッフと共に行い、コミュニケーションを図りつつ、楽しみながら出来るよう支援している。	利用者の希望を取り入れてメニューを作り、職員も一緒に食事しています。調理や食器洗いなど、利用者の協力を得ています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分摂取量を確保できるよう工夫しながら飲用して頂き、個人の食事管理にも努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、本人の行き届かない部分には介助を行い、週に1度訪問歯科往診を利用し、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用し、排泄リズムを把握し、自立排泄困難な利用者には時間帯で排泄誘導している。	排泄記録をもとにパターンを把握して適切に誘導し、自立に繋げています。誘導時は直接的な言葉を避け、さりげない声かけを心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消の食材を使用し、その人に合わせた運動を毎日行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を決めているが要望に応じて随時入浴可能に努めている。また、同姓介助に心がけている。	毎日入浴することができですが、週に2回程度は入浴しています。入浴を拒む利用者はいません。入浴剤を使うなど、楽しめるようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のリズムに合わせて休息して頂いている。夜間2～3時間おきに巡回を行なうことで、安心安全確認に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調の変化には敏感だが職員一人ひとりが薬の内容、副作用について全てを把握できていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合った役割や余暇などを日々行い、退屈と感させない毎日を送れるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、近くのサイクリングロードに散歩に出かけ、だいたい月1～2回は外出行事を儲け、出かけるように心がけている。	普段から近くの遊歩道や公園を散歩しており、車椅子の利用者も外出しています。行事でピクニックやカラオケ店、外食のバイキングなどにも頻繁に出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に沿って好きな衣類や食品を一緒に購入している。全員ではないが金銭管理は本人に任せ使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の訴えなどがある時は電話をかけたり、手紙の郵送を行なっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その場に合った照明の強度、TVやラジカセなどの音量の調整を行い、季節のお花や身体にあわせた椅子などを使用し、共用できるソファなどを用意し、利用されている。	2階のため、南に面した共用空間は日当たりが良く、明るくゆったりとしています。利用者が花紙で作った貼り絵や季節の装飾が飾られ、家庭的な雰囲気を作っています。温度や光、音なども適切に調節されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	馴染みの関係が出来、個々に合ったゲームや工作などを行なう一方共用空間の中でもその時の気分で一人で利用出来る様配慮している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具・装飾品・写真を持って来て頂き、居心地良く生活してもらえるよう工夫しているご自身で作られた作品なども掲示している。	居室は、利用者の馴染みの家具や生活用品が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっています。居室入り口には、分かりやすいよう、暖簾や戸棚を設置しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム全体がバリアフリーとなっており、居室入り口には本人の物とわかるような写真や飾り物などをメモリーボックス内に入れてある。		